

特別支援教育は つながる教育

特別支援教育はつながる教育 1 ～通常の学級と通級指導教室の連携例～

○通級指導教室担当による通常の学級での出前授業

- ①人権教育に関する授業（みんなちがって、みんないい）（なかよし集会）
（特別支援学級理解啓発の特設授業）
 - 子どもたちだけではなく、教師も子どもの見方を共通理解でき、人権啓発をすることにつながります。
- ②全学級でのコミュニケーションと心身の緊張弛緩の授業
 - 肩や背中に優しく触れ、お互いをケアするスキンシップ等を通してコミュニケーション力をつけます。
- ③ソーシャルスキルの授業（自己理解を促す教材の活用）（コラージュ療法^{※9}等）
 - ソーシャルスキル（自己認知スキル、他者認知スキル）を身に付ける時間を十分とります。コラージュ作業を通して、自分を表現し、自分に目を向けたり、他者への意識を高めたりします。

○学習面、生活面での担任と通級指導教室担当の連携

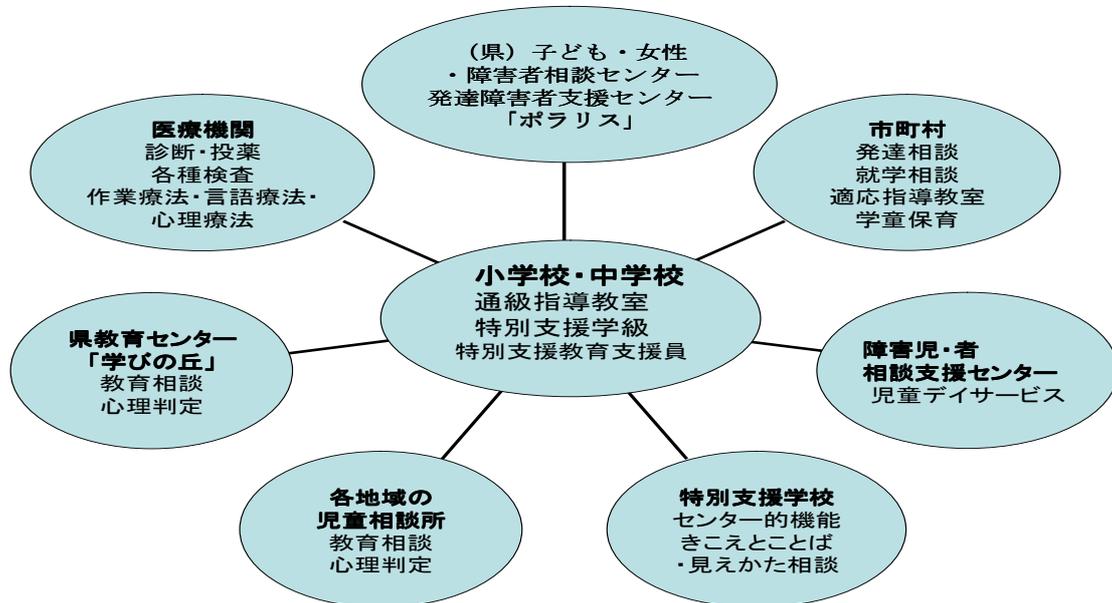
- ④通級指導教室で子どもの認知特性を踏まえた予習的な学習や補充的な学習
 - 個別指導のメリットを生かし、子どもの特性に合った学び方の指導を行い、通常の学級へつなぎます。
- ⑤担任と通級指導教室担当の密な情報交換（面談、連絡ノート等）
 - できるだけ、お互いの無理のない方法や内容を工夫し、継続した連携を図ります。
- ⑥通級指導教室担当が給食の時間や通常の学級の授業にTTとして参加
 - 学級経営の安定がなによりも大切であることを踏まえ、TTに入ることので、学級全体の子どもの様子を観察し、落ち着いた状態を作ります。
- ⑦担任と通級指導教室担当による毎週のソーシャルスキルトレーニング(SST)
 - 視覚的に分かりやすい教材の工夫と短く分かりやすい言葉での指示を心がけます。話すときには順序良く話させるようにします。身近なテーマから様々な問題が起きる場面を取り上げ、その場に応じた表現方法を身に付けさせます。

取組の効果

- ✔ お互いの違いを認め合う素地が作れ、人権意識の向上が見られるようになりました。
- ✔ 相手の心が少し分かるようになったという子どもの感想もあり、本来の明るさ、やさしさを育み、仲良く生活できる楽しさを感じることができるようになりました。
- ✔ 自分の気持ちに気づき、心が安定する体験ができ、自己理解や他者理解につながりました。
- ✔ 在籍する通常の学級での授業に自信をもち意欲的に参加できるようになってきています。学習で自信をつけたことにより、生活面でも安定して学校生活を送れるようになりました。
- ✔ 支援の必要な子どもが困っていることに早期に気づき、授業形態などを工夫することや、学級全体への支援に通級指導教室担当が入ることは、子どもたち全員が落ち着くことや、学級のルールや規律が守られることにつながりました。

特別支援教育はつながる教育2～特別支援学校や専門機関との連携～

Aくんが利用できる支援



通級指導教室を中心とした連携の例

- ★ 「知らせる・広げる」ポイント
 - ・通級指導教室のパンフレットを医療機関、相談機関に常置
 - ・就学前健診・PTA総会で保護者への通級指導についての説明
 - ・校長会での通級指導の意義の周知
- ★ 「深める・連携する」ポイント
 - ・特別支援教育支援員との研修
 - ・特別支援学校と通級指導教室担当者との連絡会議
 - ・通級指導担当者連絡会議
 - ・県市町村の特別支援教育研究会へ参加

- 🌱 たくさんの選択肢の中から、その子どもに合った支援を選択します。（校内委員会の活用）
- 🌱 事前に文書等で打合せを行うなどし、円滑な支援につなげることが望ましいです。
- 🌱 どの相談機関においても、事前に保護者の同意を得て、連携をとることが大切です。

取組の効果

- 🌱 専門的な立場から助言を受けることにより、多面的な観点で子どもたちをとらえ、具体的な支援につなげることができました。
- 🌱 各関係機関（者）が一人の子の支援を巡って相互に効果を感じることができました。
- 🌱 服薬等の情報を正確に把握でき、学校での配慮がしやすくなりました。
- 🌱 通常の学級の担任が、教室環境の調整、授業の流れの構造化、教材の工夫等を通して特別支援の視点に立った学級経営に努めるようになりました。
- 🌱 教師全員が診断の有無にかかわらず、子ども一人一人に応じた指導や支援の必要性に気づくことができました。
- 🌱 教師の肯定的に子どもたちをとらえる姿勢が、子ども同士の関わり方にも良い影響を与えているように思います。